

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>強くたくましい心身や豊かな人間性と社会性を育むとともに、社会の要請に対応した高い専門性を有する人材の育成を目指し、一人一人が自己実現を果たすことができる基礎的な能力と態度の育成に努める。</p> <p>(1) 社会の変化に対応し、地域産業の発展を担う人材の育成に努める。</p> <p>(2) 豊かな人間性と高い倫理観を育み、積極的に社会に貢献できる人格の形成に努める。</p> <p>(3) 学習や部活動を通して、生涯にわたり健康で明るく豊かな生活が送れるよう心身の健全な発達に努める。</p>	
2 評価する領域・分野	◇学習指導・情報発信・生徒指導・進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関する満足度は、高い評価を得られているが、生徒の学習ニーズに寄り添った授業形態、指導内容等の改善及び、新学習指導要領に則した指導の在り方を模索し実践する必要がある。 ・基本的なモラルやマナー育成等に関する満足度は高いものの、社会の変容を捉えながら、自ら日常の学校生活の動向・意識を認識し自治意識をもって生活の改善を図っていく能力の育成は今後の課題である。 ・進路実現に向けて主体的に意思決定し行動に移せる生徒が少ない。 ・指定校推薦中心で入りたい学校より入れる学校を選ぶ傾向が強い。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇授業改善の推進（アクティブラーニング、ICT活用、言語活動） ◇学校からの積極的な情報発信と保護者や地域との連携強化 ◇安全で安心できる学校環境を形成する。 ◇教育相談の充実を図る。 ◇自己の在り方生き方を考え、生徒が主体的に進路決定できるようにキャリア教育を推進する 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員会議、職員研修会、学年会議、教科会議等	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 公開授業週間、研究授業の取組強化 (2) 授業評価 (3) HPを活用した情報発信の強化 (4) 生徒支援会議の定着と充実 (5) 教育相談体制の強化 (6) 職員による企業訪問、面接指導 (7) 各学年会との連携による進路ガイダンス (8) 3年生の進路決定後の指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 公開授業週間アンケート、研究授業の回数 (2) 授業評価の分析結果の利用 (3) HP更新回数 (4) 月1回程度の実施 (5) 教育相談の職員研修を実施 (6) 求人数の比較、就職試験や入試の合否状況 (7) 生徒の感想（感想記入用紙） (8) 進路決定後の取組状況（提出物等） 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の職員会議で公開授業週間や研究授業の趣旨を説明し、全校体制で取組んでいる。 ・授業評価の分析結果の利用。 ・HPの更新を行い、学校行事、部活動の結果など、取組内容とその成果を伝えることに力を入れている。 ・年間5回の生徒支援会議を実施し、情報共有と具体的支援の方法について協議した。 ・SCによる職員研修を実施した。 ・コロナ禍で企業訪問等を工夫し、求人確保に努めた。また、職員による面接指導も行った。 ・外部講師によるガイダンスを開催し、進路情報の提供と進路意識の高揚に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自身の授業改善に有益だったとの声が多く挙げられたか ②授業評価で肯定的なものが多かったか ③HP閲覧者が増加しているか ④生徒情報が把握でき、速やかな対処ができた。 ⑤SCの研修や個々のカウンセリングで大きな成果があった。 ⑥求人数、合格率が増えたか、面接のスキルが高まったか。 ⑦生徒の進路意識が以前より高まったか。 	<p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p><input checked="" type="radio"/> A B C D</p> <p><input checked="" type="radio"/> A B C D</p> <p><input checked="" type="radio"/> A B C D</p> <p>A B <input checked="" type="radio"/> C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>

11 成果・課題	<p>○公開授業週間では、言語活動の充実や思考力の育成、アクティブラーニングを意識した授業が数多く見られ、非常に参考になったとの声が多く挙げられた。</p> <p>○教材のアプローチの仕方や動画、視覚的な教材の工夫など昨年度導入されたICT機器の活用やPowerPointでスライドを作成することなどが学習内容をより発展し、学習の充実につながっている。</p> <p>○生徒情報の共有がしっかりとでき、SCの派遣等適切にできた。</p> <p>○国公立大学の合格者を出すことができた。</p> <p>○各種進路ガイダンスにより、生徒の進路意識はより向上したと思われる。</p> <p>▲HPの更新だけに頼らず、保護者や中学生に本校のことをより深く知ってもらうために、学校として何ができるか、今後検討していきたい。</p> <p>▲変化する生徒・家庭に対し学校も柔軟に対応が求められる。今まで以上に生徒や保護者の教育ニーズの把握に努めるとともに、学校全体で対応することが必要である。</p> <p>▲基礎学力の向上と早期からの進路の意識付けが課題である。</p> <p>▲進路決定後の課題提出では、課題のチェックや未提出者への督促など正副担任の負担が大きくなった。継続可能な形へと方法を再検討する必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間や研究授業のさらなる充実を図り、言語活動の充実や思考力・判断力・表現力の育成、ICTを活用した授業についてのノウハウを学校全体で共有できるような環境づくりに努める。 ・授業評価にも引き続き全職員で取組み、授業改善・授業規律の強化により学習意欲を高める。 ・各分掌、学科の連携を層密として、HPや学校案内パンフレットを通して本校の魅力を伝える。 ・保護者と連携を図り信頼関係を構築する。そのうえで家庭と学校で生徒の指導にあたる。 ・生徒の指導にあたっては、生徒情報を共有し組織で対応していく。専門機関等と連携する。 ・コロナ禍における企業訪問や面接指導の方法等について検討し、生徒の進路実現に繋げる。 ・国公立大学や難関私大に一般公募制推薦で挑戦できる生徒を増やす。生徒自身の可能性を広げられるように、各学科・各学年と協力し、低学年からの意識付けと情報提供にも力を入れる。 ・1年生対象の企業見学を充実させ、令和3年度の中・長期インターンシップの計画・準備を進める。 	

○ビジネス科

2 評価する領域・分野	◇学習指導・地域連携（ビジネス科）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・本校に入学して良かったと思う生徒 80.3%＜卒業時アンケート＞その理由として「専門的な知識や技術が身に付いた」「専門教科に関する資格が取得できた」の回答が多い。生徒は資格取得を通して学習活動を充実させることができた。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇社会で信頼され実りある人生を送るために、商道德を大切に心身を養い、ビジネスマナーを身に付けるとともに、コミュニケーションを円滑に図れる人材を育成する。商業の基礎基本を定着させることで商業教育の土台をつくり、より高度な専門知識を習得できる授業を展開する。 ◇ふるさとを愛し地域に貢献できる人材を育成するために、地域や地元企業と連携した教育活動を行う。「地域の担い手育成事業」を通して、地域が抱える問題を考察し解決するための手段を考える力を育成する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・3学科の連携及び相互協力のために学科主任会議を開き、主に「地域の担い手育成事業」に向けての取組みについて協議を行う。 ・ビジネス科の基本方針を実現させるためにフィールド長会議を開き、フィールド独自の取組み及び学科運営について協議を行う。 ・ビジネス科の活動を充実させるためにビジネス科会議を開き、学科運営について協議を行う。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 小テストを行い生徒の理解度をチェックすることで、学習状況を把握し授業展開の方向性を考えている。 (2) 課題研究の授業において、地域の担い手育成事業の取組みを行い、各務原市に貢献できる活動をフィールドごとに行っている。	(1) 知識・技術の定着を図る指標として検定試験を受検し、その合格率をもって判断する。 (2) 課題研究発表会や3科合同発表会において、実践してきた活動を発表し、その発表内容の評価をもって判断する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p><地域の担い手育成事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドごとの専門性を生かした取組みを行うことができた。 <p><学習内容・資格取得について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学習やTTを活用して生徒の理解度を高めることができた。高度資格取得としてITパスポート試験に5名の生徒が合格した。 <p><コロナ禍による学校教育活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習支援システムを活用して授業研究会やワープロ競技会を実施した。本校独自の商業実務競技大会を行うことができた。 	<p>①課題研究発表会・3科合同発表会における外部評価。</p> <p>②授業アンケートによる自己評価、検定取得状況。</p> <p>③各行事の運営や取組みの状況。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
11 成果・課題	<p>○「地域の担い手育成事業」では、高齢者との地域共生社会を目指してフィールドの専門性を生かした取組みを行うことができた。</p> <p>○コロナ禍による臨時休校によって通常よりも登校期間が短かったが、多くの科目で目標の検定を受検できるまでに授業進度を取り戻すことができた。</p> <p>○ビジネス科集会などで、ビジネスに対する正しい姿勢や信頼される商業人になるための心構えを働きかけることができた。</p> <p>▲タブレットPCが導入されたが、十分に活用することができなかった。</p> <p>▲普通教科の学習内容を理解不十分だと感じている生徒が多い。就職試験の学力試験に十分に対応するためにも、生徒が積極的に普通教科の授業に取り組むよう動機付ける必要がある。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCを活用するために、デジタル教材を積極的に使用した授業展開を行えるようにする。 ・課題研究においてより充実した教育活動が行えるように、生徒の自発的活動を喚起し、自ら考えたテーマに沿った研究活動を行えるようにする。 		

○情報科

2 評価する領域・分野	◇学習指導・地域連携（情報科）			
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時におけるアンケートで本校に入学して良かったと回答する生徒が69.3%であったが、その主な理由は友人や仲間づくりができたことであった。また、専門的な知識や技術、資格取得については十分に身に付けられなかったという意見が多かった。 ・上記の結果分析から、生徒たちは現状の情報科の学びに魅力を感じていないと推測される。そこで、生徒の興味・関心が得られる教材や授業展開を検討し、生徒の強い学習意欲向上を目指す必要がある。また、進路指導の充実を図ることも併せて喫緊の課題である。 			
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇授業内容と教材の充実及び地域の外部機関との連携により、地域の課題を解決することを題材として生徒の専門性と学習意欲を高める。 ◇資格取得（CGクリエイター検定ベーシック、ITパスポート） ◇学習指導とつながる進学指導（4年制大学や公立短大への指導強化） 			
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域産業の担い手育成事業」における3学科連携 ・定期的な学科職員会議及びコラボレーションプラットフォーム（Microsoft Teamsなど）を活用した学科職員のオンライン連携機構 			
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
<ul style="list-style-type: none"> (1) 地域と連携したブランディング授業及び生徒の学習意欲と進路に一致する実習内容の改変と精選。 (2) 資格指導計画の大幅な見直し。 (3) 個に応じた進路相談及び学科進路指導の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒アンケート及び作品成果物評価。 (2) 資格取得状況と生徒たちの意識調査及び進学指導での利用率より判断する。 (3) 進学状況結果より判断する。 			
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価		
<p>【ブランディングデザイン連携授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品調査からデザイン検討までブランディングする工程を実践的に学習することができた。 <p>【実習内容の大幅な改変】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のプログラミング意欲の向上、メディア制作の難しさと作品制作への喜び、印刷業界における制作技術の習得を目指した実践的な実習を実施することができた。 <p>【資格指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITパスポートを重点指導として新たに追加。 <p>【個に応じた進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の進路相談から、学科職員で連携した面接指導や作品指導を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が興味・関心をもって学習に取り組むことができたか ②外部評価及び資格取得状況 ③学習内容と連携した生徒の目指す進路希望及び進学実績状況 	<ul style="list-style-type: none"> Ⓐ B C D A Ⓑ C D A Ⓑ C D 		
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携したブランディング授業では、実践的な学習に加え、生徒の興味・関心を強く高めることができた。 ○新規に導入展開した実習及び教材により、より学ぶ意欲が向上したとの声を目の当たりにした。 ○BYODで導入したiPadを効果的に活用することができた。特に本年度より導入したApplePencilが本校の情報科の学びに有意義であり、同様にMetaMoJiとの親和性は非常に生徒達に好評であった。 ○情報科の学びを活用した進学（AOや公募制推薦）で公立短期大学や準難関4年制私立大学への合格が多数あり、学習内容と進学先の大きなクロスマッチを実感することができた。 ▲地域に情報科がどのような科であるか知ってもらうための宣伝活動である。加えて、地域に貢献する活動を今以上に増やす必要がある。 ▲情報科の進学先傾向と教育課程が一致しないため大幅な改変が必要である。 		<p>総合評価</p> <p>A Ⓑ C D</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した学習活動の充実を図る。学校内外での生徒の活躍の場を増やしていきたい。 ・情報科の未来を見据えた教育課程の大幅な改変（AI・クラウド・メディアデザイン）を行い、同様に実習内容や授業展開も変更する。併せて進学指導の強化を実施する。 				

○福祉科

2	評価する領域・分野	◇学習指導・地域連携（福祉科）	
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	卒業時のアンケートで、福祉科に入学して「とても良かった」「どちらかといえば良かった」と合わせて100%であり、生徒の満足度が高い。理由として「専門的な知識や技術が身に付けられた」と答える生徒が86.1%となり、専門学科として学びの充実を図ることができた。	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇各フィールドの専門的な学びのための地域資源の活用 ◇資格取得（介護福祉士国家試験、保育技術検定1級）	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・ケアワーカーフィールドと子ども福祉フィールドで実施（フィールド別会議、福祉科会議で推進）	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 地域の福祉機関等との連携 (2) 介護福祉士国家試験、保育技術検定等合格に向けた授業及び補習形態の工夫	(1) 実施後の生徒のアンケート及び地域の各機関からの評価 (2) 国家試験及び保育技術検定1級合格100% (3) 卒業時アンケートで「在学中に専門的な知識や技術を身に付けたかった」と答える生徒が20%以下	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	<ul style="list-style-type: none"> 介護実習や保育実習では事前の打ち合わせを十分に行い、安全を確保した上で実施することができた。 専門的な学びを深めるため、2、3年生から放課後の継続的な補習を実施した。 事前学習・事後学習、介護福祉士国家試験等の補習では生徒同士の学び合いを充実することができた。 オンライン学習システムを活用し、実習報告会や講習会を行うことができた。 	①生徒が意欲的に取組めたか ②外部評価（事業関係者、地域住民） ③計画に基づいて補習に取組めたか	A (B) C D (A) B C D A (B) C D
11	成果・課題	総合評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ○介護福祉士国家試験では、9年連続全員合格している。 ○地域の様々な機関と協働した実践的な学びができ、学習意欲を高めることができた。 ○介護福祉士国家試験や保育技術検定等への取組みを通し、諦めずに努力する姿勢を身に付けることができた。 ○「地域の担い手育成事業」では、研究対象を絞り、専門性の高い学習を展開することができた。 ▲地域との交流事業における更なる内容の充実を図る必要がある。そして、地域資源を活用した学科間・フィールド連携を含めた地域課題の解決に繋がる学習の展開が必要である。 ▲ICT（タブレット端末）を活用し、主体的に学ぶ姿勢等、効果的に学びを深める取組みに繋げることができなかった。 	A (B) C D	
12	来年度に向けての改善方策案		
	<ul style="list-style-type: none"> 今年度実施はできなかったが、様々な地域交流が定着している。さらに生徒の主体性を引き出せるよう計画的な事前準備を進めたい。 福祉を学ぶ魅力の情報発信（ホームページの充実、中学生向けの福祉教育）を行う。 ICT（タブレット端末）を積極的に活用し、主体的に学ぶ姿勢を身に付けることができる授業展開に努める。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月25日（書面にて回答）

【意見・要望・評価等】

- ・教育目標の「一人一人が自己実現を目指し、ふるさとを愛し、社会貢献できる人材の育成」が各科の取り組みから感じられた。公務員合格、国公立大学や有名大学合格、ITパスポート試験合格、介護福祉国家試験9年連続全員合格など学習や部活動を通しての自己実現が高く評価できる。
- ・アンテナを高くして動向をキャッチし「今は何、次は何」の意識をもてる人の育成や、ハードルが高くてもチャレンジする人の育成をさらに目指してほしい。
- ・3学科が互いに連携して、日頃の教育活動にあたっていこうとしていることがよく分かった。
- ・卒業後に就職する生徒と進学する生徒が共存する状況の中で、それぞれの生徒の進路指導が充分になされていることを実感した。
- ・コロナ禍における今年度、対外行事等が制約され、中止された行事や実習等が多かった。中でも地域との連携を図って、地域資源を活用していこうとする意欲がよく伺われた。
- ・情報科生徒アンケート結果が他学科に比べ低かった事について、分析にあるように、教材の工夫や授業展開の検討をぜひお願いしたい。
- ・コロナ禍で、就職と進学を迎えられる皆さんは本来の夢がかなうのか…そのために色々のご苦労が多いと拝察する。ぜひ、コロナ禍を福に変えていただき、新しい未来が開かれることを願っている。
- ・「新学習指導要領が改訂となり、それに即した指導の在り方を模索し、実践する必要がある」という内容については、社会の大きな変化に伴い、幼児期から大学までの教育は、今後自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動するという「主体的に学ぶ」人間像が求められている。先日授業を見学したときに感じたことですが、皆さんとても真面目で一生懸命に学ばれていて素晴らしかったです。発言する場面などが少なかったように感じた。実習に来る生徒も、受け始めた頃と比べると、最近では自己アピール力や行動力に物足りなさを感じる。
- ・幼稚園でも近年感じていることは、入園してくる子どもがひと昔前より、年々幼くなってきている。家庭の教育力の低下も感じる。日本の社会全体が受け身になっている危機感がある。職員の育成も重要な課題。「12. 来年度に向けての改善方策案」の中の、言語活動の充実や思考力・判断力・表現力の育成などの授業改善の推進は、今後の社会を支え、しっかりと生き抜いていく人間力の育成をする上で、大事な課題となる。これからの社会を担っていく若いみなさんに期待したい。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の中、各種事業において滞りなく実施できていると思った。また、こういった社会情勢の中、生徒達への生活、学習の指導への努力を感じた。
- ・豊かな人間性、社会性を育むためには、様々な外部との交流ややりとり、発言が良い影響となると考えるが、コロナ禍で難しい部分があったと思う。そんな中でも工夫して企業訪問やHP更新に取り組まれ、努力されていることが見えた。
- ・ビジネス科においては、ビジネスマナーが身に付いていることは社会人にとって強みになる。「仕事ができる」以前の基本だと言える。コミュニケーションの在り方に変化のある今だからこそ、継続して学んでほしい。
- ・情報科においては、新しいものを積極的に取り入れて実践的な学習ができている。
- ・福祉科においては、卒業時のアンケートの満足度が100%であることはとても素晴らしい。ICTの活用は、どの分野にも広がっているので期待している。
- ・リモート授業参観をしたが、現代の高校生のプレゼン力は大したものだと感心した。これらも先生方のご指導の賜物だと考えられる。学校へ出入りした際に見受けられる生徒の姿も、とても感じが良く、素晴らしいと実感している。
- ・福祉科や情報科は入学当初から、ある程度の覚悟をもって入学しているための分析結果になり、厳しい視線で問題解決へ向けて頑張っている姿勢が見える。
- ・ビジネス科にある普通教科に対する力不足の件は、ずっとつきまとう問題であると考えられる。ただこれは高校での問題のみでなく、小中での学習にベースがあるとも考えられるが…。
- ・部活動中の生徒の会話を見聞きしたが、学力の程度が低く感じる話をしていることがあった。それにも関わらず、大学へ進学できるのは非常に複雑な心境になった。世の中、勉強のみではないが、最低限の学力と学習意欲をもち、学習以外の目的があったとしても、進学する意味などを考え指導する機会が必要だと考えられる。
- ・各科、地域との交流をもった学習ができることがとても良い。
- ・今後、さらにオンライン学習が必要になった場合は、全員が参加して身に付くようになるといいと感じた。
- ・国立大学の合格者がいるのは素晴らしい。今年度は就職難になるのではないかと心配したが、多くの生徒の進路が決まって良かった。不採用の数については残念です。